

『静波/FF静波』LINE-UP



台車取鍋仕様



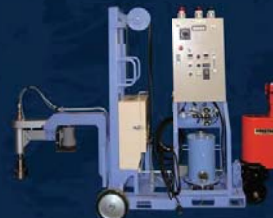
標準吊下仕様



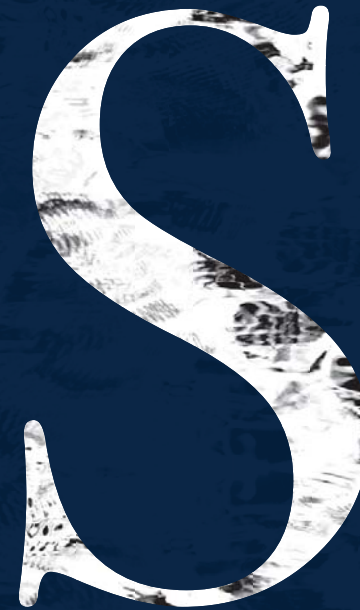
スライド仕様



FF台車全自動仕様



FF台車全自動自走仕様



溶 湯 清 浄 装 置

【 静波 / FF 静波 】

S H I Z U N A M I

製造元

福岡アルミ工業株式会社 <設計部>

〒811-2501 福岡県粕屋郡久山町久原2800-1
TEL:092(976)2600 / FAX:092(976)1658
<http://www.alumi-fukuoka.co.jp/>



<http://www.alumi-fukuoka.co.jp/shizunami/>

販売元

日軽エムシーアルミ株式会社 <フラックス部 蒲原工場>

〒421-3297 静岡県静岡市清水区蒲原161
TEL:054(388)3431 / FAX:054(385)2141
<http://www.nmca.jp/>



<http://www.nikkeikin.co.jp/flux/se-shizuna.html>

30年の実績と優れた技術、 確かな信頼を得た『静波/FF静波』の力

アルミニウムを始めとして、銅・マグネシウムなどの金属について品質不良の原因となる溶湯中のガスを除去するためには、脱ガス処理が必須です。

一般的な方法として一方向回転式ガス吹込法がありますが、この方法では溶湯表面の渦の発生により、表面の酸化被膜の増加とその酸化被膜の巻き込みで品質低下を招いてしまいます。溶湯清浄装置『静波』は、正逆回転させることで、その名の示す通り極めて静かな溶湯表面を保持しながらガスを拡散する為、溶湯表面のドロスを溶湯内部へ巻き込まず、酸化被膜を増加させない新しい溶湯清浄装置です。

さらに上位機種である『FF静波』は、専用フラックスをローターシャフトから溶湯内に吹き込みながら、一方向回転による巻き込み攪拌処理を行い、その処理後に正逆回転処理が可能です。

正転と逆転でしか実現できない脱ガス処理と酸化物除去を唯一両立させた、『静波シリーズ』の力、ぜひご確認ください。



ローターの形状と材質について

小さい気泡を大量に発生させるための生成理論を用い数百通りの試作製作、解析を行いました。溶湯を扱うプロフェッショナルである精錬会社の弊社が、お客様の溶湯に対して、寿命やコストを加味し、摩擦による効果低減を抑制した最も適した材質と形状を選定いたします。



正・逆回転方式の特徴



『静波』のポイント

- ① 溶湯内の攪拌が隅々まで行き渡り、脱ガス効果が優れています。
- ② 酸化皮膜の溶湯内への混入が少なく、金属の品質が向上します。
- ③ シャフトの回転数が小さい事、脱ガス時間が短い事により、消耗品の損耗料が少なくコスト安になります。
- ④ 脱ガス後の沈静時間が短縮できるので、設備の効率的な使用が図れます。
- ⑤ 脱ガス処理時に発生する酸化物の生成量が少ないので、金属の損失減少になります。
- ⑥ 脱ガス処理に要する全体時間の短縮化により、その間の金属温度の低下が緩和され省エネに寄与します。

『FF静波』のポイント

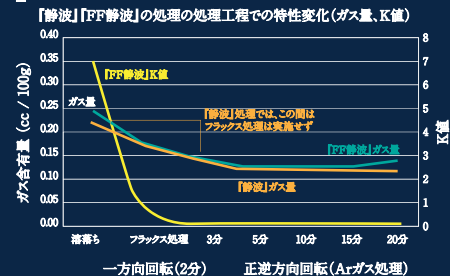
- ① より溶湯の清浄度を高めます。
- ② フラックス作業の環境改善、時間短縮、作業の平準化が図れます。
- ③ フラックス投入量を従来の1/10程度に減少できます。

SPECIAL FEATURE
完全オーダーメイド / 柔軟なアフターサービスで安心にお使いいただけます。

『静波/FF静波』の機種ラインナップ

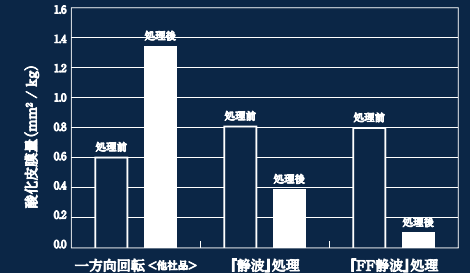
| | | |
|---------|------------------|----------------------|
| 静波/FF静波 | 吊下型 | 吊下ミニ仕様 |
| | | 吊下標準仕様 |
| スライド型 | 2位置仕様 <処理室・メナ位置> | 吊下台車搭載仕様 |
| | | 吊下連続間欠仕様 |
| | | 吊下インライン仕様 |
| | | 3位置仕様 <処理室・湯液室・メナ位置> |
| 台車型 | 自動移動式 | 手動昇降タイプ |
| | | 自動昇降タイプ |
| 取鍋専用型 | 据付式 | 旋回/傾動タイプ |
| | | 自動昇降タイプ |
| 特殊型 | | ジブクレーン仕様 |
| | | アームスイング仕様 |

脱ガス量とK値の変化



酸化皮膜量

(測定法:ガス検知管法)



環境影響 <フラックス処理>

(排ガス量)

